

令和元年第5回(9月)定例会

議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。  
次に、質問順位4番 8番議員 小林秀嘉君。

議長

小林秀嘉君。

小林議員

通告に基づきまして一般質問致します。

その前に文面が他の議員さんと違った形になりまして、本当に申し訳ございません。

それでは質問したいと思います。通告者は総務課長にお願いしたいと思っております。

タイトルは買物と健康関連になっておりますけれど、私が一般質問しようと思ったきっかけはですね、大竹のイズミの新町の店が閉鎖する、閉店すると出ました。私は常々ゆめタウンが晴海埠頭に出来てからこういう事が起きるのではないかと予測しておりました。町づくり委員会でも自分が何人かの人たちに「こういうことが起きた時はどうしますか」という私は反対に質問しておりました。それが現実になりました。

私は元、和木に来る前は大竹の本町に住んでおりましたので、新町店へは度々ゆう事が良くありました。私はもうとっくに高齢者、末期高齢者になってるような感じでいたんですが、買物が和木町は便利だな、この町は素晴らしいな、お医者さんも近いからいいなと思ってまいりました。しかし瀬田、関ヶ浜の奥と言ったら失礼なんですけれど、大変不便になるな、どうされるんだろうという事からこの質問をさせてもらっております。

私は岩国にお店持っておりますが、なんでこういう事を申しますかと言いますと、由宇の方からですね、教育長さんも他の方もおられるんですが、由宇からバスに乗って岩国の駅前まで来られる人が何人かいらっしゃいます。そうしたときに70歳を超えますと、100円、片道100円で駅前まで来られるんです。私は和木駅が出来た時は大変素晴らしい、今もそう思っております。ところがこの広域行政の枠と申しますか、和木

## 令和元年第5回(9月)定例会

町の人が乗ったらこういう形にはならないと思うんです。昨日も小瀬の方が来られましたけれど、岩国の駅前までは100円で来ておられる、帰りも100円、ただし本数は極端に少なくなっております。それに合わせてバスに乗らないといけないという不便さはありますけれど、ただ1点は駅前にもイズミ店が無くなってしまった事があります。南岩国にあるのみです。大型のスーパー、同じ共食いと言ったら失礼かもしれませんが、駅前も本当に不便になりました。フジしかありません。丸久すらありません。食べ物は何とかあります、繊維もん、着る物とか例えば靴下とかいろいろありますけれど、買うのに本当に不便です。そして駅前にあった100均もフレスタの方へ移動しました。

ゆうことで、買物弱者にとって大変しんどい時代が来たなと思っております。私もあと数年で目も悪くなっておりますし、免許証がなくなる、召し上げられる、そうした時にどうしたらいいだろう、で和木の仲間の人に聞きますと電気自転車に乗ってゆめタウンまで行っておられる人も実際におられます。それは元気うちだけですよね。そうした時に、和木の町内をバスが走ってる、素晴らしいな、いいなと思って参りましたけれど、やはりここ一番です、行政の範囲、壁というのがありますけれど、関ヶ浜の1丁目あたりから今の緑ヶ丘住宅の近くまで歩いて出なければいけないかもしれませんが、奥へ入るバス、あのバスが途中で停まるのはやさしいですが、同じ値段に出来ないかということでもあります。難しいのは百も承知で総務課長にお尋ねいたします。よろしくお願い致します。

議長 田中企画総務課長。

田中企画  
総務課長 今回のご質問、公共交通、あるいは広域バスのご質問というふうに受け取らせていただいて回答させていただきたいと思えます。

昔の話から始めて恐縮なんですけど、私子供のころ、昭和4

## 令和元年第5回(9月)定例会

0年代には、栄橋バス停には複数のバスの会社が、沢山のバス会社の時刻表がありまして、国道2号岩国・大竹間には頻繁にバスが運行されておりました。

その後、マイカーブームとなってバスの運行本数が減少し、バス会社の組織転換、あるいは撤退が続いたように思っております。

近年、特に地方において人口減少続きまして、公共交通機関、特にバスの利用者に減少してきたことから民間では支えきれなくなった部分もあります。以前の市町村の行政区域を超えたバス運行、例えば岩国市から和木町、和木町から大竹、そのような行政区域を超えたバス運行から、市町村が運営主体となりまして、それぞれ市町村の行政区域内の交通空白地域、これを運行するためのバスあるいはタクシー輸送に移行している、こういったところが多くなってきているように思います。

バスの利用者の減少から、民間では事業が成り立たずに、市町村がその財源を使って補助金を出して、空白地域の交通手段を確保せざるを得ないという状況にあるのではないかと考えております。

市町村の行政区域を超える広域バスについてなんですが、例えばこれを和木町で導入しようというご意見ご質問だと思います。結論から申し上げますと、事業を実施することは不可能ではありません。ただし相手市町との調整、あるいは承認、関係機関、交通機関等との承諾、財源問題など課題が多く、現時点で実施を検討することは困難ではないかというふうに考えております。

岩国市の地域バスのお話だったと思います。100円70歳以上の方なら100円で乗れるという事だったと思いますけど、和木町でも和木町コミュニティバスがありまして、乗車料金は100円です。75歳以上の方などは減免する事ができます。お陰をもちまして毎年4万5千人の皆さまにご利用いただいております。議員がおっしゃられますとおり他市町をお出かけする場合は、和木コミュニティバスを使ってそのあとは和木

令和元年第5回(9月)定例会

駅からJR利用ということになることもあるかと思えます。

岩国市さんあるいは大竹市さんでもそれぞれ行政区域内でバスを用意されて岩国市さんでは70歳以上が100円とお聞きしました。岩国市では多額の補助金を出されているというふうに聞いております。これは岩国市の行政区域内で完結されている話だと思います。大竹市さんも大竹市内で完結されていると思います。お互いまだなかなか行政区域を超えるというのがなかなか難しい段階にあるんだというふうに思っております。こういった行政区域を超えての移動する場合、他市町の方も岩国市さんも大竹市さんも他のところも他市町に移動する場合はバスを利用してその後は電車でありますとか、いろいろ複数の交通機関を利用されているのではというふうに思っております。1つの交通手段で目的地に到着することが最も利便性が高いと、それは重々分かっておりますけど、実際には都会においても地方においても、広域交通を利用する際には、複数の交通機関に乗り換えることが基本となっているのではないかなというふうに考えております。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 大変な事が起きている訳ですけれども、今、装束のところにも和木町のお馴染みの会社が社宅を取り壊しております。どこで何が起きるかわかりませんが、地図が、買物地図それがころっと変わってしまう可能性、あるいは人口が移動するという事も十分にあり得る事じゃないかと思っております。

今は岩国の話になりましたけれど、通告の中に大竹駅、あるいは玖波駅、あるいはと言いましたけれど、和木駅から電車に乗って降りれば済む話ではあります。だけど年いきましたら低床バスに乗るんだったらいいんですけど、高床式の元のバスが来ると非常に危ない、危険性が高いかと思っております。私は高齢者の代表じゃありませんけれど、そういった気持ちで伺っておりますが、課長どうでしょう大竹までバスを伸ばすいうたら難

令和元年第5回(9月)定例会

しいでしょうかね。もっと広範囲に、県をまたがうことになるんですけど、昔、課長がおっしゃってた頃、まあ小さい頃でしたら次の2番目の質問にもありますけれど、中学校へ行く時は大竹の中学校へ行ってたとか、麻里布の中学校へ行ってたとか東中学校へ行ってたとかいう話はあるんですけど、同じような形のものにはなり難いんでしょうかね、どうでしょう。

議 長 田中企画総務課長。

田中企画  
総務課長 先程申しましたとおり、広域でバスを運行する事は不可能ではないと思うんですが、あまりにもハードルが高いので現時点ではなかなか難しいというのが現状だと思います。

公共交通ではありますけど、民間業者さんがそういった事業者になって以前はやっておられたんですが、それがかなり衰退というか減っておりまして、本数ももの凄く減っておりますし、事業者自体も減っているという現状です。それを市町が広域でカバーしようとするハードルが高いですしそれに関する財源もですね、民間ではやれないような財源を市町が全部みるのかとそういった問題にもなると思われまますので簡単に事業実施という方向には進まないのかというふうに考えております。

議 長 小林秀嘉君。

小林議員 ぜひ前向きにご検討願いたいと思います。

2番目も同じような感じなんですけれど、これは教育長にお話を伺いたいと思います。

和木町に住んでたらなんとも感じませんが、小瀬の方に住んでる人にとって、朝7時頃からバスに乗って元町、あるいは三笠になるんでしょうか、そこの中学校まで通学しておられて、帰るときは午後4時にはもう帰ってこないといけない、部活を途中で切って帰らないといけないという不便さがありま

## 令和元年第5回(9月)定例会

す。今、人絹町の中学校は小中一貫校を目指して行動が始まっております。要はあの通路、BIGがありますけれどあそこの通路が小学校、中学校跨っていますけど、何か歩道橋をつけて子どもたちが運動場へ行き来できるようにするという話も聞いておりますが。実際に小瀬の人たちは本当に苦勞して小学校、中学校の時から人絹町の中学まで通わないといけないという不便さがあります。これも広域行政の粹いうのに邪魔されている訳でありますけれど、実際にどうしたらいいんだろうか、合併して和木町が単独行政を行っております。素晴らしい事でありますし、私も賛成した議員の内の一人であります。周防大島、上関、平生、あるいは田布施のところは合併するのにあまり和木みたいにびくびくする必要もなかったかもしれません。まだ玖珂郡という町そのものを保っているの、和木町だけあります。玖珂町は残っていますけど名前だけになってしまいました。行政が人員を削減する、今になってみますとそういったことは良くわかります。

それです。まず教育長にお尋ねいたしますけど、小瀬の小学校、中学校の生徒たちは何人ぐらいおられるでしょうか。

議長 重岡教育長。

重岡教育長 小瀬地域の児童、生徒の数でございますが、中学生はバスで今通っておりますけども、14名の乗車というふうに聞いておりますので、中学生は14名だというふうに把握しております。それから小学校につきましては、5月1日現在の基本調査では13名というふうに記憶しております。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 ありがとうございます。それでバスのいくら負担になるんです、乗せて中学生朝夕帰っておりますけども、お分かりになるでしょうか。

令和元年第5回(9月)定例会

議長 渡邊教育委員会事務局長。

渡邊教育委員会事務局長 小瀬から東中学校に通うためのスクールバスの経費ですが、昨年度で370万円と聞いております。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 ありがとうございます。私は和木町に越して20数年になりますけれど、実際におりまして、小瀬の人たちは何で和木町へ入学できないんだろうかとずっと感じておりました。行政の壁というのがありますけども、もし合併してたらスムーズに入れたかどうかは分かりませんが、ただ1点、やはり行政の壁ということからして一番駄目なことは、和木町の小中学校の受け入れるキャパがなければそれは、はなから難しいと思いますが、教育長に質問いたしますが、小中学校の受け入れるキャパはあるのでしょうか。

議長 重岡教育長。

重岡教育長 スペース的には問題はありませんが、先程の小林議員さんのお話の中に、小瀬の子どもたちを受け入れられないかというあたりの事につきましては、就学すべき学校の指定、これにつきましては、学校教育法の施行令に「市町村の教育委員会は、就学予定者の就学すべき小学校又は中学校を指定しなければならない」とあります。従って岩国市に住民票のある子どもにつきましては、岩国市教育委員会が指定することになっておりますので、なかなか難しいっていいですか、これ以上コメントができないところでございます。

議長 小林秀嘉君。

令和元年第5回(9月)定例会

小林議員

私もまず地元の住民たちが立ち上がる、あるいは和木へ入りたい、そういった事からおきてくるのではないか、ここをなんとか今後しなければならないんじゃないか、誰が考えてもですね、関ヶ浜から自転車で来られる訳ですよ、小瀬から自転車で来るのにそんなに時間はかからないと思います。通学通路の確保とかスクールガードとか和木町は沢山出ておられますけど、そういった事も考えてあわせて質問しないといけないんじゃないでしょうか、何か私が和木へ移ってきてですね、そこがずーっと胸につかえておりました。同じ狭い日本にいてですね、そういった行政の壁で子どもたちが和木へ入りたい、住所を移さないといけない、たまには装束の方におられてですね、なんかスポーツで和木の方の話はたまに伺ったりもするんですけど、それもやはり壁を取るために誰かの、おじいちゃん、おばあちゃんの住所へ変えないといけないというようなこともお聞きします。今、教育長から全く壁で、そういった壁があつてできないというお答えでございました。とても残念ですけど、今後また検討課題として、私は質問をさせていただきたい。どうしたらそういった事がなくなるんだろう。小さい町、隣も小さい村だったと思うんですけど、町同士でね、入りたいところへ入れたらと思います。今、柱野の小学校の立派なのできておりますね。あそこも併合するゆうんですか、学校が2つほど束ねて1つにするとか、学校の校歌もですね、変えないといけない、そのまま同じではないだろう、子どもたちにとっては非常に寂しいことじゃないかなと私は思います。

また次の時に私も勉強して質問したいと思います。

以上で一般質問終わりたいと思います。

議長

再質問はございませんか。

議長

再質問がないようですので、以上で小林秀嘉君の一般質問を終わります。